

日本航空 株主さま特別企画

JALグループの環境への取り組みについて



2022/03/06

日本航空株式会社



常務執行役員

植田 英嗣

総務本部長

サステナビリティ推進委員会委員長

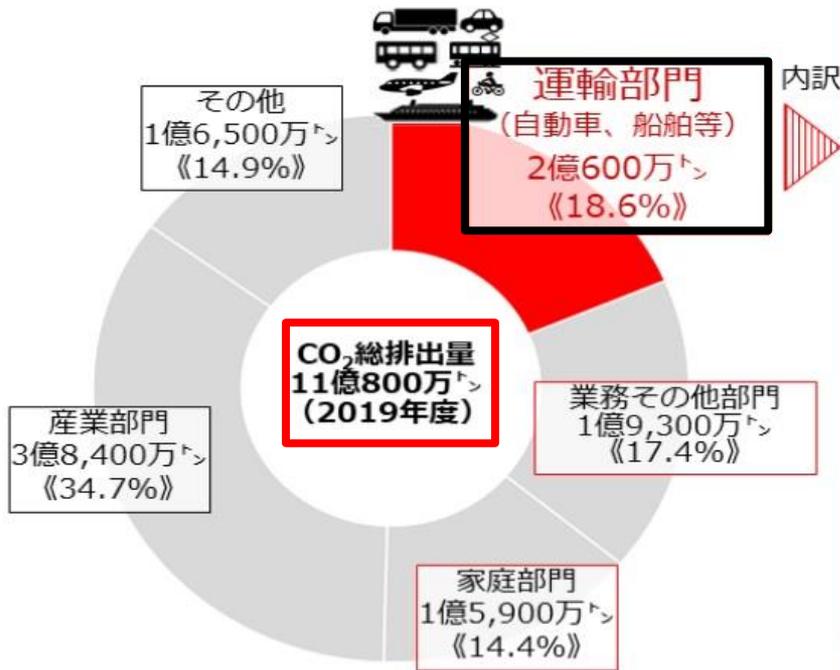


JALグループ 環境への取り組み

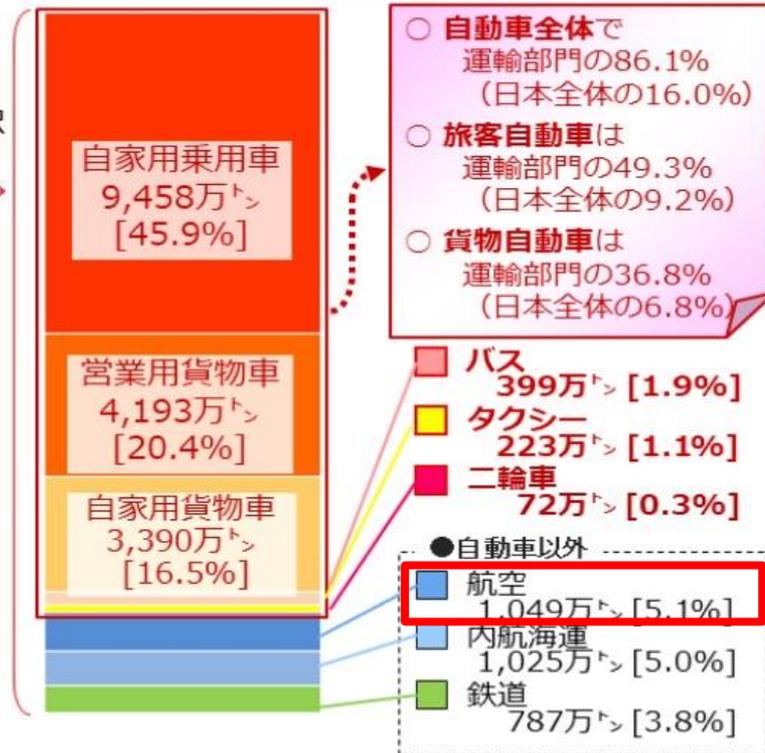


日本のCO₂排出量と航空の排出量

我が国の各部門におけるCO₂排出量



運輸部門におけるCO₂排出量



【国際航空】
約1,500万トン

(出典：国土交通省資料)

<航空分野の比率> 全分野における割合：0.95%

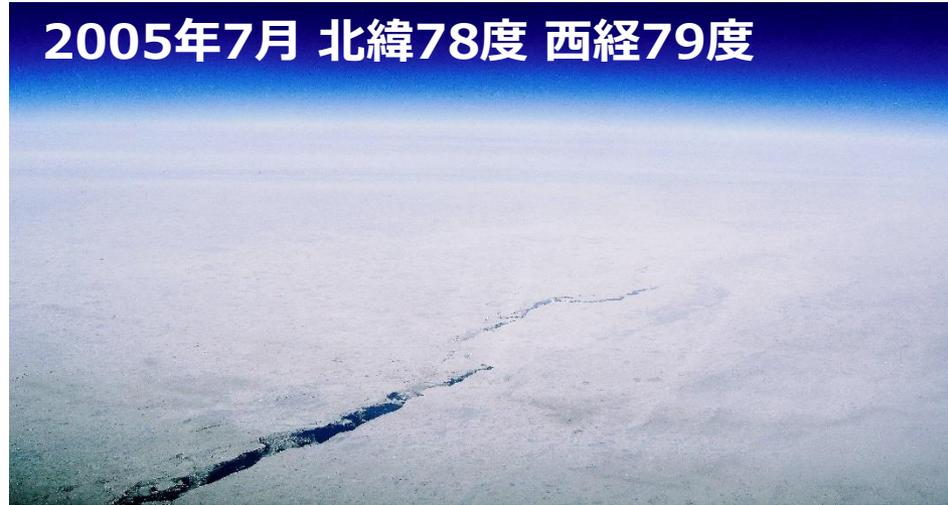
※世界全体では、運輸部門の割合：約23%、その中で航空の割合：約13%(全体の約3%)

<単位輸送当たりCO₂排出量(g-CO₂/人km)> 自動車：130 航空：98 バス：57 鉄道：17

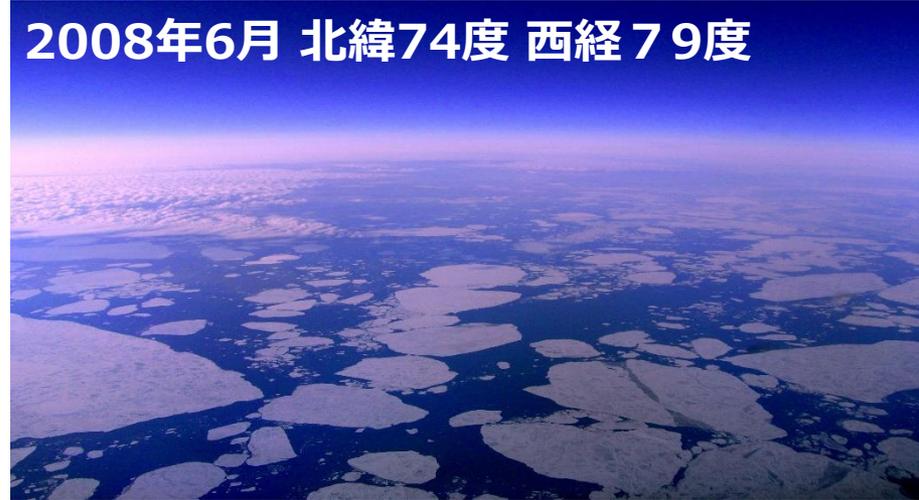
単位輸送当たりのCO₂排出量は、鉄道の約6倍（欧州における“飛び恥”）

空から見た環境変化

2005年7月 北緯78度 西経79度



2008年6月 北緯74度 西経79度



2004年7月 アラスカの白い氷河



2008年7月 姿を消しつつあるアラスカの氷河

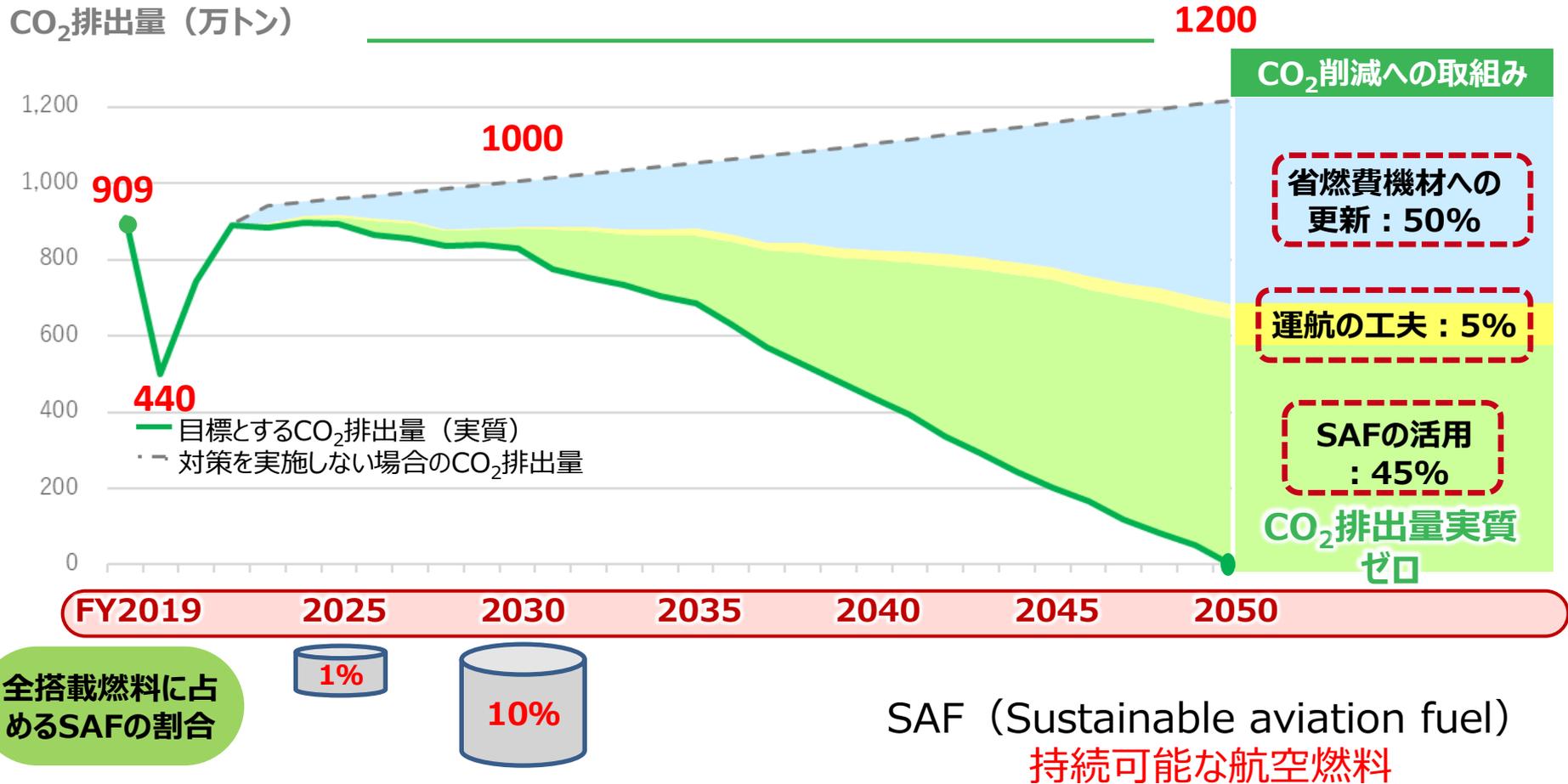


※写真は運航の安全を十分に確保した上で撮影しています

2050年のCO₂排出量実質ゼロに向けて

中期経営計画

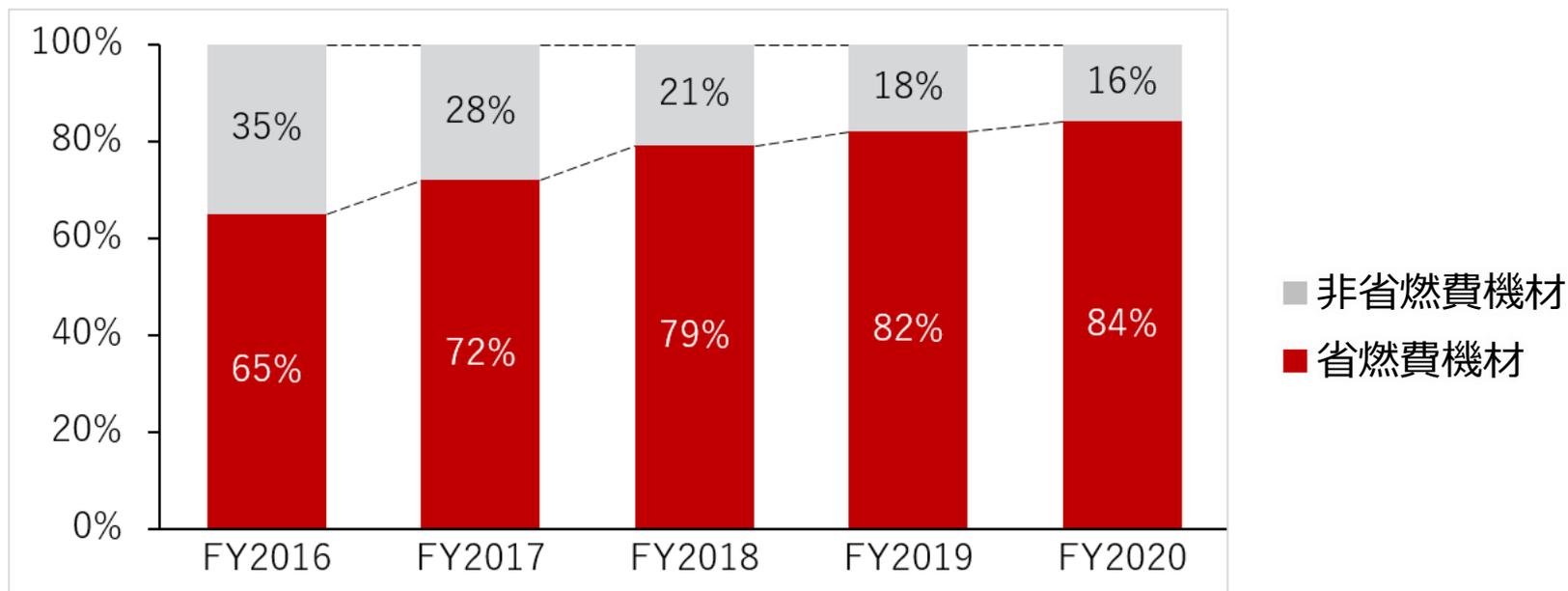
JALグループのロードマップ



JALグループの取り組み：省燃費機材への更新

省燃費機材への更新で、環境負荷を低減

【JALグループの省燃費機材比率】

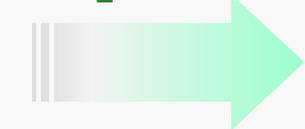


省燃費機材：A350-900、B787、B777、B738、E170/E190、ATR42-600/72-600



■ 777-200/200ER/300

CO₂削減率



20~25%向上



■ A350

JALグループの取り組み：省燃費機材への更新



東京（羽田）

札幌（新千歳）

777の片道の燃料使用量

8000L

A350の燃料使用量

6400L

満タン(60L)の車28台分の削減に相当します。



JALグループの取り組み：運航の工夫

JAL Green Operationsの取り組み推進

CO₂削減量（2020年度実績）

29,300t

出発
準備中



5,200t

駐機中



5,300t

出発前



6,600t

飛行中



15,300t

降下中



5,900t

着陸時



14,000t

運航時
以外



合計

81,600t

=



40万世帯※の
1か月の電気使用
によるCO₂排出量

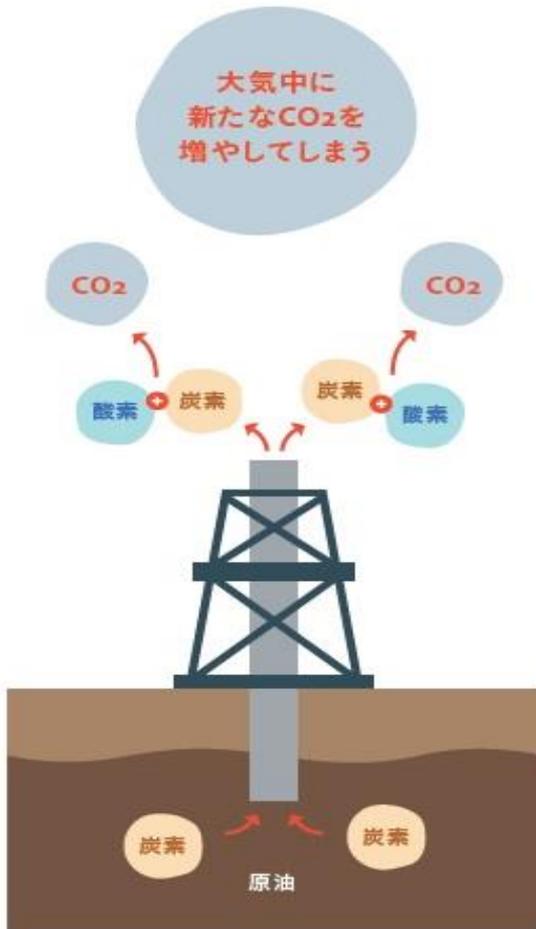
※例:東京都大田区

JALグループの取り組み：SAFについて

SAFはなぜ環境にやさしいのか？

従来のジェット燃料

大気中に
新たなCO₂を
増やしてしまう



バイオジェット燃料

大気中に
新たなCO₂は
増えない

従来のジェット燃料に比べ
CO₂排出量削減



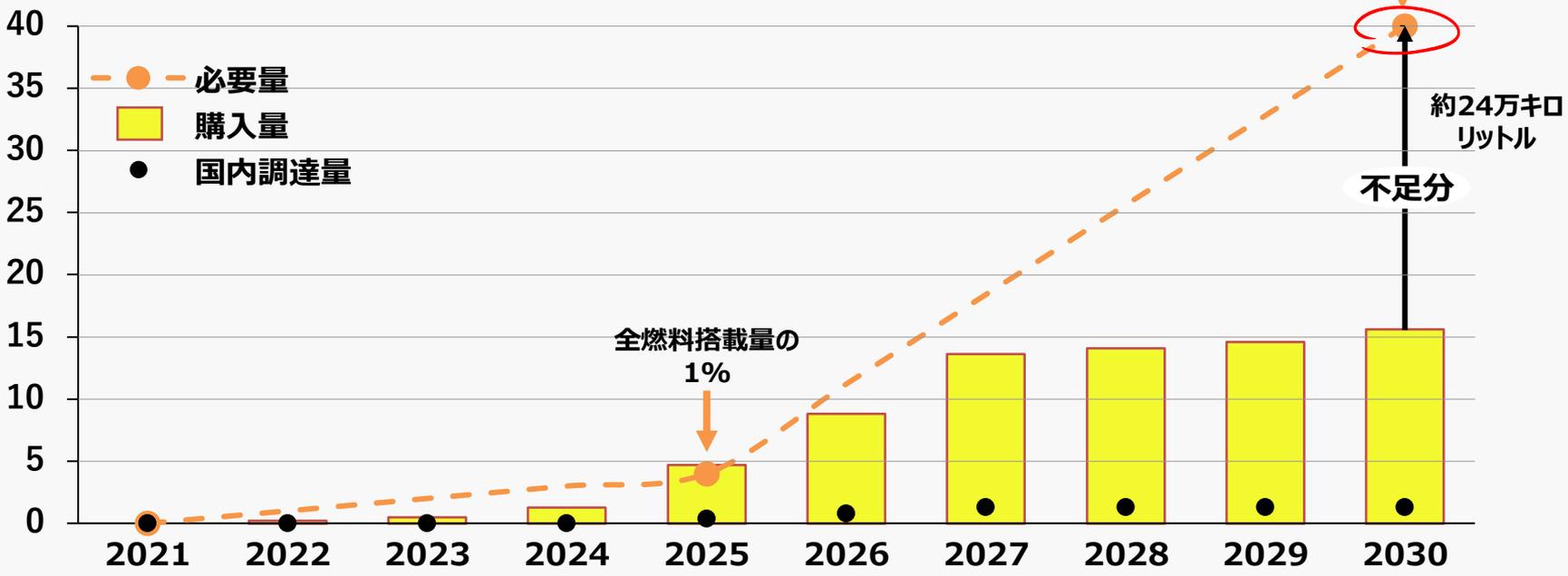
CO₂排出

JALグループの取り組み：SAFの安定的な確保に向けて

2030年に向けたSAF確保の見通し

(注) SAF : Sustainable Aviation Fuel

[万キロリットル]



JALグループの取り組み：SAFの活用（海外）

SAF確保に向けた海外での取り組み

米国のSAF製造会社
(Fulcrum社)に2018年に出資



ネバダ州で稼働中のSAF製造プラント
(2021年7月撮影)

アライアンスメンバーとのSAF共同調達

- ✓ JALとワンワールドアライアンスメンバー8社が、米国カリフォルニア州にある再生可能燃料製造会社のAemetis Inc.社からSAFを共同で調達
- ✓ 2024年度からサンフランシスコ発定期便に搭載



JALグループの取り組み：SAFの活用（国内）

SAF確保に向けた日本国内での取り組み

国内線定期便への国産SAFの搭載

- ✓ 古着25万着から製造した国産SAF搭載



2021年2月4日(木) JL319便（羽田発、福岡行）

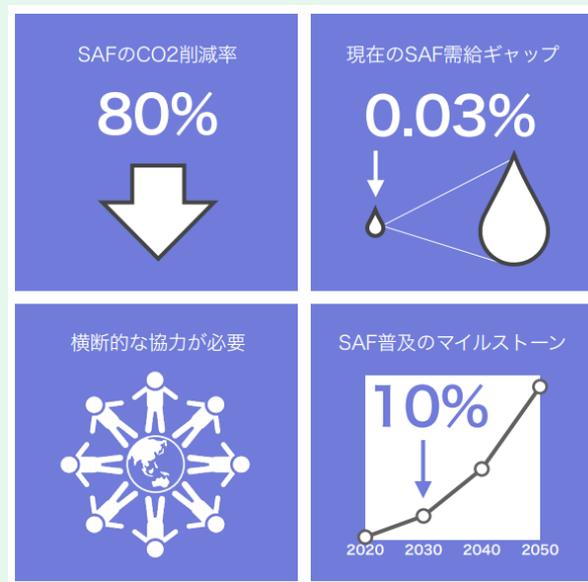
- ✓ 国産SAFプロジェクトが成功



2021年6月17日(木) JL515便（羽田発、新千歳行）

政府およびあらゆる産業セクターと連携した 国産SAFの普及の推進

- ✓ ANAと共同で2050カーボンニュートラルに向けたSAFに関する共同レポートを策定



プラスチックと海洋汚染問題

- 海洋プラスチックごみは、1億5,000万トン。
- 毎年、800万トンが、新たに海に流入。
- 2050年には、海洋プラスチックごみの量 **>** **海にいる魚**



川岸のプラスチックごみ（提供：公益財団法人かながわ海岸美化財団）
出典：横浜市ホームページ



世界全体で年間数百万トンものプラスチックが陸上から海洋へ流出しています。このままでは2050年までに魚の重量を上回る量のプラスチックが海洋を占めると予測されています。

出典：エレン・マッカーサー財団
THE NEW PLASTIC ECONOMY: REIMAGINING THE FUTURE OF PLASTICS | 2019

プラスチックと地球温暖化

石油から作られるプラスチックを製造・廃棄すると、CO₂が発生して地球温暖化の一因に。

2014年



6%

2050年



20%

【石油消費量】
プラスチックが占める
割合が20%に上昇

使い捨てプラスチック削減目標

- 3 R(Reduce/Reuse/Recycle)+ 1 (Redesign)を推進
- お客さまに提供するすべての使い捨てプラスチック用品の2025年度目標は以下の通り

【客室・ラウンジ】：新規石油由来プラスチック全廃

Reduce

Redesign

使用済みPETボトル
を原料とした容器

Reuse

繰り返し洗って使える

Redesign

Recycle

100%再生PETボトル
(機内用JAL特注品)

Reduce

Redesign

そばつゆボトルを
廃止し、ジュレに



使い捨てプラスチック削減目標

- 3 R(Reduce/Reuse/Recycle)+ 1 (Redesign)を推進
- お客さまに提供するすべての使い捨てプラスチック用品の2025年度目標は以下の通り

【空港・貨物】：環境配慮素材へ100%変更

Reduce

空港受託手荷物
ビニール袋提供終了
(年間150万枚)



Recycle

貨物梱包ビニールシート
リサイクル素材配合、
40年前からリサイクル



JAL Vision 2030

2030年に向けたJALグループのあるべき姿

JALグループは、大きく時代が動き価値観が変わるなか、
「安全・安心」と「サステナビリティ」を未来への成長のエンジンとして、以下を実現します

安全・安心

確かな安全と
いつも心地よい安心を
感じられる
社会を創ります

JAL Vision
2030

サステナビリティ

誰もが
豊かさと希望を
感じられる
未来を創ります

多くの人々やさまざまな物が自由に行き交う、心はずむ社会・未来において
世界で一番選ばれ、愛されるエアライングループを目指します

ご参加ありがとうございました。

アンケートへのご回答はこちらから→



日本航空株式会社 株主さま特別企画

JALグループの環境への取り組みについて

